

令和5年度学校評価報告書

令和6年（2024年）3月11日

北海道教育委員会教育長 様

北海道追分高等学校長 印

次のとおり令和5年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- (1) 社会性を育み、他と共存し、真の自由と責任を身に付け、個性の伸長を図る。

(2) 学習指導の改善、充実による、確かな学力の向上を図る。

(3) 心の触れ合いを基調とする、創意ある特別活動の充実を図る。

(4) 自己実現を達成できる進路指導の充実を図る。

(5) 地域社会と共に、地域を思い地域に貢献できる生徒の育成を図る。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育課程 学習指導 地域連携 など	・情報交換を活かし、生徒個々の能力・実態の把握ができた。 ・教育・学社融合事業による町教委の協力を受け、総合的な探究の時間等において、コミュニティスクールや町教委と連携し地域人材を活用した。 ・臨時休校時にもリモート授業を実施し、日常的なICT活用授業も実施した。	・コミュニティスクールや教育・学社融合事業が生徒の主体的な探究活動を大いに支えた。 ・学習成果発表会は、生徒の多様性や成長の様子、学校での教育活動の様子がよくわかる発表だった。 ・教育活動の地元中学校への公開手段として、地元中学校での発表などを検討してはどうか。また、SNSなどの広報活動において、町の協力を得ることも有効である。
改善方策	・コミュニティスクール、教育・学社融合事業の活用をさらに検討し、地域との連携を強化する。 ・探究等の発表を地域のいろいろな場所で行うことを検討する。 ・ICTの活用の取組など、研修や情報の共有をすすめ、教育の質向上維持を図る。	
生徒指導	・個別の教育相談やスクールカウンセラー、PT・SWの活用を計画的に実施し、生徒の状況把握や情報共有の強化、教員の対応力向上に効果的であった。 ・生徒人数が少なくなる中でも、生徒会を中心に生徒主体の行事を維持した。コロナの5類移行に伴い、ボランティア活動の幅も増え、積極的な生徒の参加があった。	・学校祭や学校説明会にも生徒が積極的に参加し、地域住民や地元中学生が追分高校を身近に感じることができた。 ・生徒の多くは明るい表情をしており、日々の人間関係も良いように思う。学校全体として実態に即した組織的な取り組みを一層行う。
改善方策	・本校生徒が地域に繰り出し学ぶと共に、自分たちの活動を広く知ってもらう機会を増やす。 ・コミュニケーショントレーニングを充実させ、円滑な人間関係づくりを促す。	
進路指導	・多様な進路・個に応じた指導を全職員協力して行い、効果的に生徒の進路実現へ結びつけた。 ・町や誘致企業会等との外部連携を図り、高校1年生の段階から計画的にキャリア教育を推進し、生徒の進路意識の向上につなげた。	・前年に比べ、今年の評価が高くなっていることは、それだけ生徒の満足度も増している。 ・就職・進学率100%の実績があるとともに、町内外企業との連携も大いに活用されている。
改善方策	・進学就職志望に限らず様々な職場見学を促し、進路目標の早期確立を目指す。 ・誘致企業会やコミュニティスクールとの連携を図り、引続きキャリア教育を充実させる。	
公表方法	PTA役員会や学校運営協議会において説明、ホームページへの掲載	

3 添付資料

- (1) 自己評価書

(2) 学校関係者評価書

(3) 教職員自己評価、保護者、生徒アンケート結果

学校関係者評価

組織名	学校運営協議会委員
-----	-----------

1 本年度の重点目標

評 価 者
学校運営協議会委員9名

重点目標 の適切さ	適切である。 学びなおしの要素も入れてはどうか。
--------------	-----------------------------

2 自己評価結果

評価項目・指標等			達成 状況	取組の 適切さ	改善の方策	自己評価 の結果の 内容の適 切さ	取組の 適切さ	今後の改 善方策の 適切さ
大項目	中項目	小項目						
教育課程 学習指導 地域連携	教育課程 等の状況	教育活動を工夫し、可能な限りこれまでの教育の質を維持する。	A	A	・ICTの活用等の取り組みなど、研修や情報の共有をすすめ、教育の質の向上維持を図る。 ・学社融合事業やCSを活用し魅力ある授業を発信する。	A	A	B
		「めざす生徒像」を意識した教育活動を推進する	B	A				
		地域と連携した教育課程の充実。 (町の学社融合事業やCSによる連携)	A	A				
	各教科等 の授業の 状況	主体的・対話的で深い学びを実践し、能力・適性・進路に応じた学力の向上を図る。	A	A	・ＴＴや習熟度授業等少人数指導を充実させ、個別指導の効果的な実践を行う。 ・研修や授業見学などから情報共有をすすめる。	A	A	A
		授業で生徒を育てる指導を推進する。 (ＴＴ・習熟度別授業展開)	A	A				
評価者の 意見等	・コミュニティスクールや教育・学社融合事業が生徒の主体的な探究活動を大いに支えた。 ・学習成果発表会は、生徒の多様性や成長の様子、学校での教育活動の様子がよくわかる発表だった。 ・教育活動の地元中学校への公開手段として、地元中学校での発表などを検討してはどうか。また、SNSなどの広報活動において、町の協力を得ることも有効である。							
生徒指導	生徒指導 の状況	自ら状況判断し適切に行動する能力と自己肯定感の育成を図る。	A	A	・生徒情報の共有を継続し、生徒理解とサポート体制をさらに充実させる。	A	A	A
		教育相談による生徒理解の深化とサポート体制の充実を図る。	A	A				
	いじめ防 止につい て共通理 解	いじめ防止基本方針の共通理解といじめ対策委員会との連携。	A	A	・コミュニケーショントレーニングを充実させ、円滑な人間関係づくりを促す。	A	A	A
		未然防止と早期発見、啓蒙活動などに、いじめ対策委員会を中心に取り組む。	A	A				
評価者の 意見等	・学校祭や学校説明会にも生徒が積極的に参加し、地域住民や地元中学生が追分高校を身近に感じることができた。 ・生徒の多くは明るい表情をしており、日々の人間関係も良いように思う。学校全体として実態に即した組織的な取り組みを一層行う。							
進路指導	進路指導 の状況	進路目標の実現に向け、全教職員による支援体制の充実を図る。	A	A	・進学就職志望に限らず様々な職場見学を促し、進路目標の早期確立を目指す。 ・誘致企業会やCSとの連携を図り、キャリア教育を充実させる。	A	A	A
		進路目標の早期決定と早期実現を図る。	B	A				
		保護者や外部機関との連携によりキャリア教育の充実を図る。	A	A				
評価者の 意見等	・前年に比べ、今年の評価が高くなっていることは、それだけ生徒の満足度も増している。 ・就職・進学率１００％の実績があるとともに、町内外企業との連携も大いに活用されている。							
組織運営	組織運営 の状況	組織の協働体制による業務分担の均一化を図る。	A	A	・作業の標準化業務分担の平準化に努め、働き方改革を進める。 ・教職員研修の確保に努める。	A	A	A
		北海道アクションプランに基づく職場環境の構築を推進する。	A	A				
評価者の 意見等	・組織運営の状況などがうかがい知れないところがあった。 ・働き方改革と教育の充実との関係は難しい部分もあるが、知恵と工夫、外部からの示唆などで働き甲斐のある学校になっていくことを期待している。 ・学校事業担当職員に偏りがなく、定時帰宅日を設けるなど働き方改革に努めている。							

令和5年度（2023年度） 自己評価書

学校名

北海道追分高等学校

1 本年度の重点目標

- (1) 社会性を育み、他と共存し、真の自由と責任を身に付け、個性の伸長を図る。
- (2) 学習指導の改善、充実による、確かな学力の向上を図る。
- (3) 心の触れ合いを基調とする、創意ある特別活動の充実を図る。
- (4) 自己実現を達成できる進路指導の充実を図る。
- (5) 地域社会と共に、地域を思い地域に貢献できる生徒の育成を図る。

2 自己評価結果

評価項目・指標等			達成状況	取組の適切さ	今後の改善の方策
大項目	中項目	小項目			
教育課程 学習指導 地域連携	教育課程 等の状況	教育活動を工夫し、可能な限りこれまでの教育の質を維持する。	A	A	・ICTの活用等の取り組みなど、研修や情報の共有をすすめる、教育の質の向上維持を図る。 ・学社融合事業やCSを活用し魅力ある授業を発信する。
		「めざす生徒像」を意識した教育活動を推進する	B	A	
		地域と連携した教育課程の充実。 （町の学社融合事業やCSによる連携）	A	A	
	各教科等 の授業の 状況	主体的・対話的で深い学びを実践し、能力・適性・進路に応じた学力の向上を図る。	A	A	・TTや習熟度授業等少人数指導を充実させ、個別指導の効果的な実践を行う。 ・研修や授業見学などから情報共有をすすめる。
		授業で生徒を変える指導を推進する。 （TT・習熟度別授業展開）	A	A	
生徒指導	生徒指導 の状況	自ら状況判断し適切に行動する能力と自己肯定感の育成を図る。	A	A	・生徒情報の共有を継続し、生徒理解とサポート体制をさらに充実させる。
		教育相談による生徒理解の深化とサポート体制の充実を図る。	A	A	
	いじめ防止 について共通理	いじめ防止基本方針の共通理解といじめ対策委員会との連携。	A	A	・コミュニケーショントレーニングを充実させ、円滑な人間関係づくりを促す。
		未然防止と早期発見、啓蒙活動などに、いじめ対策委員会を中心に取り組む。	A	A	
進路指導	進路指導 の状況	進路目標の実現に向け、全教職員による支援体制の充実を図る。	A	A	・進学就職志望に限らず様々な職場見学を促し、進路目標の早期確立を目指す。 ・誘致企業会やCSとの連携を図り、キャリア教育を充実させる。
		進路目標の早期決定と早期実現を図る。	B	A	
		保護者や外部機関との連携によりキャリア教育の充実を図る。	A	A	
組織運営	組織運営 の状況	組織の協働体制による業務分担の均一化を図る。	A	A	・作業の標準化業務分担の平準化に努め、働き方改革を進める。 ・教職員研修の確保に努める。
		北海道アクションプランに基づく職場環境の構築を推進する。	A	A	

3 次年度以降の目標設定等に反映させる自己評価結果及びその改善方策事項

- ・コミュニティスクール、教育・学社融合事業の活用をさらに検討し、地域との連携を強化する。
- ・探究等の発表を地域のいろいろな場所で行うことを検討する。
- ・ICTの活用の取組など、研修や情報の共有をすすめる、教育の質向上維持を図る。
- ・本校生徒が地域に繰り出し学ぶと共に、自分たちの活動を広く知ってもらう機会を増やす。
- ・コミュニケーショントレーニングを充実させ、円滑な人間関係づくりを促す。
- ・進学就職志望に限らず様々な職場見学を促し、進路目標の早期確立を目指す。
- ・誘致企業会やコミュニティスクールとの連携を図り、引続きキャリア教育を充実させる。
- ・いじめ未然防止推進とコミュニケーション力の向上を図り、心豊かに学ぶ教育環境の整備と充実に努める。
- ・働き方改革を意識した職場環境の構築を引続き推進する。